第５学年　道徳科（人権）学習指導案

１　主　　題　　いきる
２　主題設定の理由（省略）
３　ねらい
　すべての人々が幸せに生きるために互いの人権が守られなければならないことを理解するとともに，人権が守られる社会になるために自分にできることを考え，行動しようとする態度を育てる。
４　指導計画

主題の中心となる人権学習	主題に関わる教科等・行事
〔第一次〕道徳科「不合理なしきたり」（ひかり）【女性】１時間 家庭や地域社会において，何気ない言動の中に，不合理で人権侵害につながるものがないかどうかを話し合わせ，それを解決するためには自分に何ができるかを考えさせる。 ⇩ 〔第二次〕社会科「水俣から」（ひかり）【共生】１時間 公害問題は，私たちの身のまわりの日常生活の中にもあり，身近な課題として捉え自分自身のこととして考えていこうとする態度を育てる。 ⇩ 〔第三次〕特別活動「阿波木偶箱まわし」【同和問題】２時間 厳しい部落差別の中を生き抜いてきた人々の願いや思いを受け止め，地域の文化や芸能を掘り起こし，復活しようとする取組から，同和問題の解決をめざした人の熱い思いを考えさせる。 ⇩ 〔第四次〕道徳科「山の粥」（ひかり）【同和問題】３時間（本時３／３） 偏見や不合理に惑わされながら差別する人間の愚かしさとともに，それを乗り越えたところで輝く村の人々の生きざまから人間を大きく包み込む真の優しさに気付き，自分にできることを考え，学校生活をよりよくしていこうとする意欲を高める。 ⇩ 〔第五次〕道徳科「人権が大切にされるまちづくり」をめざして　（ひかり）【共生】１時間 「生きる」とはどういうことなのかをそれぞれの地域の取組を通して考え，「幸せに生きる」「人間らしく生きる」権利を奪うものに対して憤りをもつとともに，自分も差別のない社会をつくっていくために共に歩んでいこうとする意識を高める。	○総合的な学習の時間 「大震災から学ぼう」 【災害時における人権問題】５時間 過去の震災のニュースや手記から，どのような被害があったのか，震災後の生活はどうだったかなどを調べさせ，実際に震災が起こったときの課題について考えさせる。また，災害時の非常持ち出し袋を考えさせたり，避難所において困難を抱えている人のケアや，みんなが安心して過ごすことができるルールなどを定めた防災マニュアルを作らせたりする。 ○総合的な学習の時間 「伝えよう　私たちの思い　すごいぞ　那賀」 【ふるさとを大切にする心】10時間 那賀町における伝統文化や芸能について調べ，それぞれに関わっている人々の思いや伝統文化の継承の大切さについて考えたり，自分たちにできることを考えたりすることからふるさとを大切にしようとする態度を育てる。

5　本時の学習

（1）目　標

差別を受けてきた村人の人間としての真の優しさについて考え，自分にできることをし，学校生活をよりよくしていこうとする意欲を高める。

ねらいとする道徳的価値	C－(13)　公正，公平，社会正義

（2）個別人権課題名　　同和問題

（3）展　開

学　習　活　動	指　導　上　の　留　意　点（評価）
1　これまでの学習をふり返り，本時の学習課題をつかむ。	○　本授業のねらいとする価値に関わる意識をもつことができるようにする。
2　農民が差別を繰り返している実態について考える。 ・自分が農民の立場だったらどうするかを話し合う。	○　差別を繰り返していることの愚かさに気付かせる。 ○　それぞれの意見を聞き合うことで，互いの考えを深めさせる。（発言）①・②
3　村人が農民に山の粥をふるまったのはなぜなのかを話し合う。	○　差別を受けてきたのにもかかわらず，山の粥をふるまう村人の温かい人間性に気付くことができるようにする。（発言）①
4　本時の学習を振り返り，まとめる。	○　自分の生活を重ね合わせて，自分にできることを考えさせ，これからよりよい学校生活への意欲を高める。（ノート・発言）②

（4）評　価

・　一人一人の人権について理解を深め，共に支え合って生きる社会の大切さを理解することができたか。（知識的側面）①

・　自分にできることを考え，学校生活をよりよくしていこうとする意欲が高まったか。（価値的・態度的側面）②